人生の節目に、きちんとマナーを。

結婚・出産・長寿などのお祝いに／進学・就職・新築といった門出に／お悔やみの席に

慶事のしきたり

「おめでとう」も、「ありがとう」も、正しいマナーでより輝きます。

お祝いのしきたり

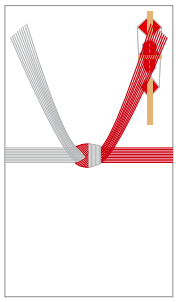
	進物の表書き	進物様式		心得
結婚	寿 御結婚御祝	紅白または 金銀10本	結び切り	遅くても挙式の1週間前までに。 日にちは吉日がよいとされています。
出産	御出産御祝 御祝	紅白5本	花結び	生後7日～1カ月以内に。最近では、お子さまの誕生記録を 記したインテリア類を贈る方もいらっしゃいます。
初節句	初節句御祝 御祝	紅白5本	花結び	雛人形や武者人形が一般的ですが、 同じ品物が重ならないよう希望を聞いておくとよいでしょう。
七五三	七五三御祝 御祝	紅白5本	花結び	10月中旬～11月15日前までに。 衣類や玩具、お菓子などが一般的です。
入園・入学	御入園御祝 御入学御祝	紅白5本	花結び	入園式や入学式の前までに。学用品が一般的ですが、 あらかじめ希望を聞いておくとよいでしょう。
卒業・就職	御卒業御祝 御就職御祝	紅白5本	花結び	卒業式や入社式の前までに。ステーショナリーなど、 新生活に役立つものが適しています。
長寿	祝還暦・祝古稀 喜寿之御祝	紅白5本	花結び	その年の初めか誕生日前までに。縁起の良い文字や 絵の入ったもの、健康・趣味にちなんだ品物が喜ばれます。
新築	御新築御祝 御新居御祝	紅白5本	花結び	新居完成後または新居披露の前までに。新居の雰囲気に合った インテリアなどが好適です。火を連想させるものは避けましょう。
開店・開業	御開店御祝 御開業御祝	紅白5本	花結び	開店や開業前までに。雰囲気に合ったインテリア用品、 フラワーアレンジメントや観葉植物なども好適です。

水引の種類と表書きの作法

水引は大きく分けて3種類あります。先方に失礼のないよう、用途に合ったものをお選びください。

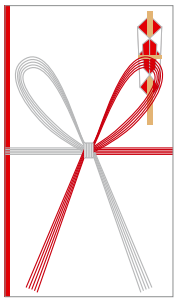
また、表書きにも正しい作法がありますので、右記をぜひ参考にしてください。

水引の種類



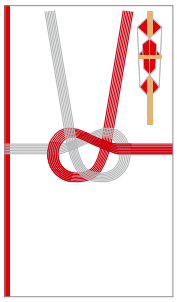
結び切り（10本）

結婚祝いに最適。簡単にはほどけないことから、一度限りという意味がこめられています。



花結び（蝶結び）

簡単にほどけることから、何度あってもよいお祝いごとに用いられます。一般の慶事に好適です。



あわび結び

由来は、長生きと長持ちの印であるあわびに似ていることから。慶事と弔事の双方に用いられます。※弔事の場合は黒白で、のしなしになります。

フォーマルな場面で、ねぎらいや感謝の心をきちんとお伝えするために、
慶事・弔事それぞれのマナーと作法をまとめました。

お返しのしきたり

	進物の表書き	進物様式		心得
結婚	内祝・寿	紅白10本	結び切り	披露宴に招待しなかった方からお祝いをいただいた場合は、お祝いの半額程度を目安にお返しします。
出産	内祝	紅白5本	花結び	ご出産から1カ月後に行われるお宮参りの後に、お祝いの半額程度を目安にお子さまの名前でお返しします。
初節句	内祝	紅白5本	花結び	お祝いの半額程度の内祝をお子さまの名前でお返しします。
七五三	内祝	紅白5本	花結び	お礼状、またはお礼のお品物をお子さまの名前で11月末までにお返しします。
入園・入学	内祝	紅白5本	花結び	大げさにならない程度のお返しをします。また、親と本人からお礼状を出すとよいでしょう。
卒業・就職	内祝	紅白5本	花結び	近況報告かたがた、お礼のお品物を贈ります。また、お礼状を出すのもよいでしょう。
長寿	内祝・寿	紅白5本	花結び	記念品として贈るのが一般的で、風呂敷や茶器など実用的なものが選ばれています。お祝いの宴席に招くのもよいでしょう。
新築	内祝	紅白5本	花結び	お祝いの半額程度を目安にお返しします。新築披露に招くのもよいでしょう。
開店・開業	開店之記念 開業之記念	紅白5本	花結び	「開店記念」や「記念品」などの文字が入った記念品を贈ります。宣伝を兼ねて店名や電話番号を入れてもよいでしょう。

表書きの作法

表書きの基本形

水引の上中央に贈る目的を、その真下に贈り主の姓名を書きます。

お祝いの種類を入れる

「御結婚」など、お祝いの種類は右上に書き添えます。

肩書きを入れる

肩書きは、氏名の右側上に小さく書きます。

代表者以外の名前を略す

代表者を中央に書き、左側に「他一同」と書き添えます。

連名

五十音順などで中央に並べます。上下関係がある場合は右側が上位となります。

※内容は一般的なもので、地域や慣習によって異なる場合がございます。

弔事の営みはこのように行われます。

仏式の場合

仏式の法要は、ご逝去の日から七日ごとに営まれますが、特に初七日、七七日は大切に考えられています。ことに、七七日は、故人の霊がその家から離れる日とされており、最も盛大な法要を行います。ご返礼品は、忌明け法要を済ませてからお届けします。

ご逝去の日

通　夜 ― ご逝去当日もしくは翌日の夜。

告別式 ― 読経のあと初七日法要を兼ねて精進落としをする場合もあります。

初七日 ― 七日め。告別式当日に行った場合は、近親者のみで行われます。

忌明け法要ご準備開始

ご返礼品のご準備
- *お香典袋、ご芳名帳などの整理
- *ご返礼先さま名簿の作成
- *不明住所調べ
- *ご予算の相談
- *ご挨拶状作成
- *お品選び

喪中のご準備
- *喪中欠礼はがきの作成

ご法要のご準備
- *お位牌のご準備
- *ご案内状のご準備
- *お引物のご準備

忌明け法要ご準備完了
- ●ご返礼品のご注文
- ●承りご明細書のお渡し

忌明け法要
- ●七七日（49日）または五七日（35日）
- ●個別配送開始（忌明け法要の翌日から）
- ●お届け伝票控えのご返却

百か日

新盆（初盆）

一周忌

三回忌 ― 三回忌の後に、七回忌、十三回忌、十七回忌、二十三回忌、二十七回忌、三十三回忌などの年忌法要を行います。

神式の場合

神式ではご逝去の日から十日ごとに霊祭を行い、五十日祭をもって忌明けとします。五十日祭は仏式の七七日にあたり、親しい方をお招きして、霊祭、おもてなしをします。その後は百日、一年、三年、五年、十年で、五十年までは十年ごと、その後は百年めに霊祭を営みます。ご返礼品は、通常三十日祭か、五十日祭の後にお届けします。

翌日祭…葬儀翌日	三十日祭…30日め
十日祭…10日め	四十日祭…40日め
二十日祭…20日め	五十日祭…50日め

キリスト教式の場合

カトリックではご逝去の日から三日め、七日め、三十日め、それ以降は毎年“追悼ミサ”を行うのが通例です。プロテスタントでは、召天後一カ月めに“記念式”を、それ以降は一年め、三年め、五年めなどの召天記念日に“追悼式”を行います。ともに、ご返礼品のお届けは一カ月め以降に行うのが通例です。

〈カトリック〉追悼ミサ…3日め　7日め　30日め

〈プロテスタント〉記念式…一カ月め（召天記念日）

※くわしくは寺院などにご相談ください。

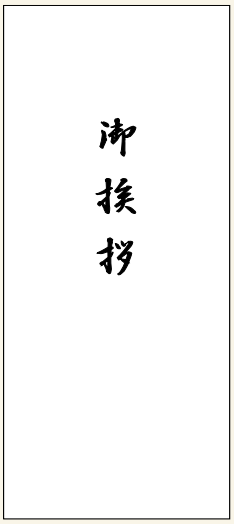
ご葬儀の後の心得についてご案内させていただきます。

ご弔問の名簿整理	お香典や、ご芳名帳、弔電などから名簿を作成します。 その際に、お香典額別に名簿を整理されますと、ご返礼品のお品選びに大変便利です。
お香典返しの時期	お香典返しは「故人に関する弔事が一切滞りなく終わりました」というご報告とお礼の意味を兼ねたものとして、式祭の終了後にお届けすることになります。 仏式　　：七七日（49日）、または五七日（35日）の忌明け法要の後 神式　　：三十日祭、または五十日祭の後 キリスト教式：ご逝去から30日めの追悼ミサ、または記念式の後
社葬などのご返礼	社葬、団体葬など、葬儀の費用が個人負担ではない場合も、ご弔問客のお香典をご遺族が受け取る場合は、ご返礼はご遺族が行うのが通例です。
お品選びについて	お品選びは、まずお香典額別に基本のお品をご選定いただき、 そのうえで先さまのご事情などを考慮してご調整をなさるのがよろしいかと存じます。
ご予算の目安	名簿の整理が完了し、ご返礼先さまの件数が決まりましたら、ご予算をお決めください。 一般的にはお香典額の3分の1から2分の1が目安とされておりますが、亡くなられた方の社会的な地位やご家庭内でのお立場、地域の慣習などによって異なる場合もございます。
ご挨拶状について	お香典返しは、本来ご返礼品を一軒一軒お持ちしてご挨拶するのが正式な習わしですが、配送される場合は式祭の形式に関わらずご挨拶状をお入れするのが通例です。掛紙は主に「志」、関西では「満中陰志」を用います。また、仏式のご挨拶状には、故人の戒名を入れるのが一般的な習わしです。戒名は楷書で間違いのないよう正確に写し取ってください。
服喪の期間	通常はお亡くなりになった方の一周忌までは喪中とされていますが、続柄やそれぞれのご事情に応じて服喪の期間はお決めになってよろしいようです。喪中の間は、ご婚礼などおめでたい席へのご出席を差し控えたり、年賀状を欠礼する旨のはがきを出して、新年のご挨拶をしないことが一般的です。
喪中の際の年賀状	喪中期間の年賀状は欠礼しますので、代わりに12月上旬までに、 欠礼のはがきをお送りしてご挨拶します。発注はご返礼品とご一緒になさるとよいでしょう。 欠礼はがきの文章見本は149ページをご参照ください。
お盆とお彼岸	ご逝去後初めてのお盆を新盆といい、ご家庭では白い提灯やお供え物などで 盆飾りを行い、僧侶に読経をしていただきます。 お彼岸にはお墓参りをして、読経、お焼香を行います。
お中元とお歳暮	お中元とお歳暮は喪中に関わりなく、日ごろお世話になった方への 感謝の気持ちを表すものです。弔事のご返礼とは趣旨が異なりますので、 忌明け後であればお贈りしても差し支えありません。
お仏壇、墓地、墓石	ご法要と納骨を済ませた後は、お位牌をお仏壇にお祀りします。 新仏さまの場合、お仏壇、墓地、墓石を一度にそろえるのは大変です。なるべく早くお仏壇をそろえ、墓石は一周忌までに建立することを目安に墓地をご選定ください。

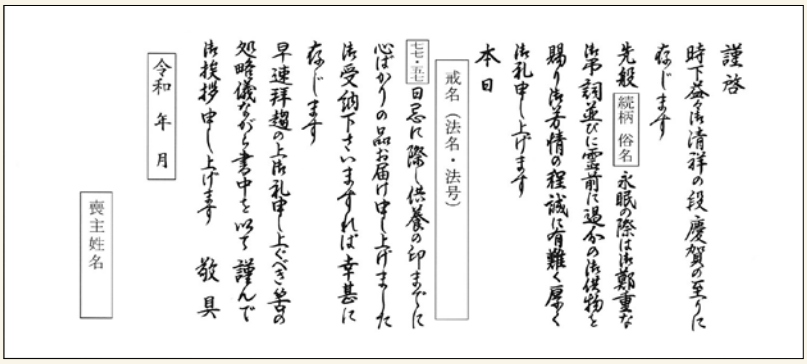
※地域により一部慣習が異なる場合がございます。ご了承ください。

ご挨拶状についてご紹介させていただきます。

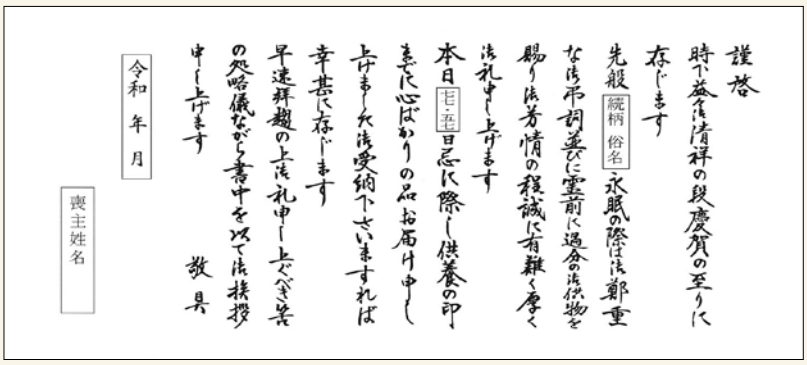
基本的なご挨拶状の例をご紹介させていただきますのでどうぞご参照ください。
文案内容につきましては、ご遺族の方のご希望や地域によって異なる場合もございますので、
事前にご確認をおすすめいたします。また、文字色は基本的に薄墨色が通例となっております。



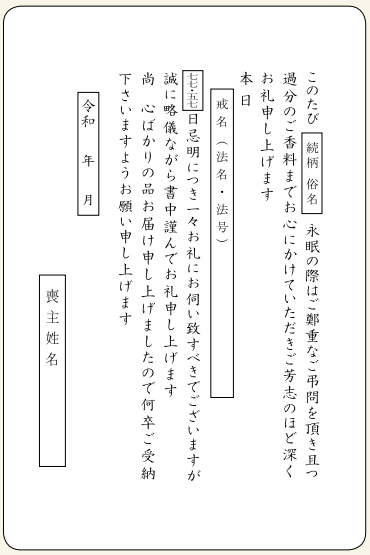
●奉書用封筒



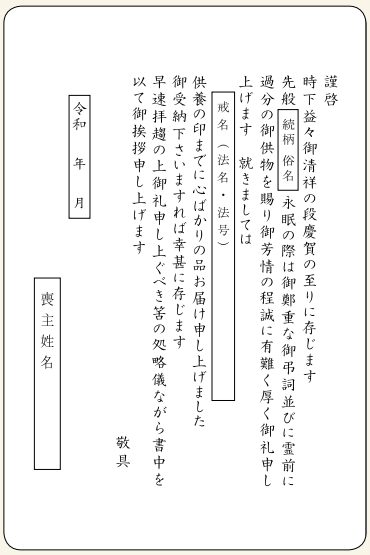
●奉書（仏式―戒名あり）



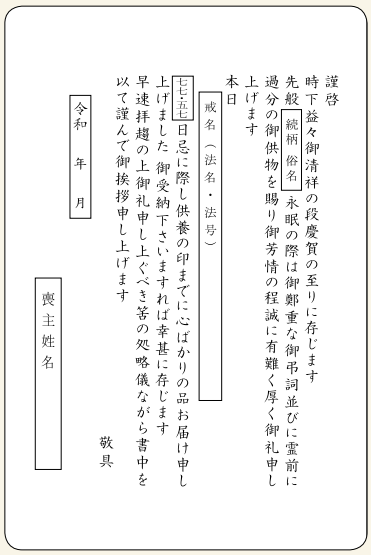
●奉書（仏式―戒名なし）



●単カード（仏式―女性文）



●単カード（仏式－忌明けが過ぎた場合）



●単カード（仏式―戒名あり）

謹啓
時下益々御清祥の段慶賀の至りに存じます
先般 続柄 俗名 永眠の際は御鄭重な御弔問並びに霊前に過分の御供物を賜り御芳情の程誠に有難く厚く御礼申し上げます
本日 命（みこと） 三十・五十日祭に際し心ばかりの品お届け申し上げました御受納下さいますれば幸甚に存じます
早速拝趨の上御礼申し上げべき筈の処略儀ながら書中を以て御挨拶申し上げます
敬具
令和 年 月
喪主姓名

●奉書（神式）

謹啓
先般 続柄 俗名 昇天の際は御懇篤なる御歴問並びに御鄭重なる御厚志を賜り誠にありがたく御厚礼申し上げます
本日諸式滞りなく相済ませました就きましては霊前に賜りました御芳志祭のほか厚く故に心ばかりの品お届けさせ頂きました御受納下さいますようお願い申し上げます
先ずは略儀ながら書中を以て謹んで御挨拶申し上げます
敬具
令和 年 月
喪主姓名

●奉書（キリスト教式）

謹啓
このたび 続柄 俗名 永眠に際しましては御丁寧なご弔問並びにご丁重なご芳志をいただき誠にありがとうございましたおかげ様で法事も滞りなく相済ませました一々参上ごあいさつ申し上げるところですが書状をもちまして御礼かたがたごあいさつさせていただきます
なお仏茶の印まで御懇志をお届けいたしますどうぞご受納くださるようお願い申し上げます
まずは御礼かたがたごあいさつまで
敬具
令和 年 月
喪主姓名

●奉書（一般応用文）

御挨拶

●単カード用封筒

粛啓
時下ますますご清祥のこととおよろこび申し上げます
さて来る〇月〇日は亡〇の〇〇忌にあたりますので左記の通り御多用中誠に恐縮に存じますがご焼香くださいますよう右ご案内申し上げます
令和〇〇年〇月
敬具
〇〇〇〇
記
一、日　時　令和〇〇年〇月〇〇日（〇）午前〇〇時～
一、場　所　〇〇〇〇
住所
電話
◎御手数乍ら御都合の程〇月〇日迄にご一報下さい

●単カード（仏式―法要案内）

喪中につき年末年始の
ご挨拶をご遠慮申し上げます
〇〇月に〇〇〇が〇〇才にて永眠いたしました
ここに本年中賜りましたご厚情を深謝申し上げ
明年も変らぬご交誼のほどお願い申し上げます
令和　年　月
〒
御住所
御芳名

●喪中はがき